



## 熊本地震で被災されました皆様に 心よりお見舞い申し上げます

### ネパールと東北、二つの経験

尾崎 昇（堺市上下水道局）

震災前のネパール、震災後の岩手で暮らした経験をもとに寄稿させていただきます。なお、本文はあくまでも個人の見解であることを予めご了承ください。



尾崎昇さん

昨年4月、ネパール地震の報を受けた時の感想は、「やっぱり来た」というものでした。カトマンズは周期的に地震に襲われる地であり、私が暮らしていた頃も日本人社会では避難訓練等を行い備えていました。カトマンズ旧市内の入り組んだ細い道、その道に覆い被さるようなレンガ造りの中層建物、新築ビルの細い鉄筋等を身近に感じる中で、任期中に地震が起らないこと祈っておりました。実際に地震が起きた後は、思っていた通りの被害状況でした。



カトマンズの街並み 被災前



被災後

大型機が発着できるのはカトマンズ空港だけ、きわめて脆弱な道路網というネパールの物流インフラの弱さは、復興の妨げになるものと思います。また、震災直後、海外からの援助をハンドリングできないため援助を断ったことが示す行政面の弱さも復興を推進する上での不安材料です。

一方、東日本大震災から5年の岩手県では、仮設住宅集約計画が策定され、12,597戸が9,000戸に集約されるそうです。5年で1/4の方が「仮設」から出られたということです。進んでいるのか遅れているのか、「5年で1/4」をどうとらえるべきでしょう？

ネパールと東北。二つの経験から震災復興に関して思うところを以下に述べます。答えの出ない話ばかりです。

### 〈施設で守る〉

ネパールで日本の援助による高架水槽が完成しました。ネパールの水道局長は、「日本の施設は大げさだ。ネパールの基準なら1つ分の建設費で3つできる」と言いました。ネパールの既存高架水槽と比べると確かに3つできそうです。



日本の無償施設



ネパールの既存施設

### 29号 目次

- ・ネパールと東北、二つの経験……………1
- ・ザイナブさんから日本語の報告……………3
- ・JICA 派遣を振り返って……………4
- ・シンポジウム「アジアにおける都市の水管理」…6
- ・専門家派遣・PPWSA ～MWAへ……………6
- ・飲・ベ・ン・ト 鎗内さんミャンマーへ…7
- 第6回 SDDC 開催・8
- \* Q & A はお休みです

その時は「日本の援助がちょっとやそつと地震で壊れるわけにはいかないからね」と答えましたが、「3 つできた方がうれしいよね」という思いもありました。「耐震化なんてお金持ちの考えなのかな」とも考えました。

東北では、壊れた防潮堤の再建が進められています。多くは以前より大きなものとなる計画です。宅地開発、道路、橋等、復興事業が進む中、防潮堤建設が最も遅れているように思えます。防潮堤の無い町に人が戻ってくるのか心配です。計画されている 10m 以上の防潮堤が実現すると、大きな壁・小高い丘が町と海を隔てるという印象になると思います。一部の地区は、「元の防潮堤の高さでいい」という選択をしました。「海が見えないと津波が来ても逃げられない」というのが理由です。あれだけの被害を受け、この選択ができることに海とともに暮らしてきた方々への畏敬を感じます。同時に「もう海を見て暮らしたくないから高い防潮堤」という選択も理解できます。「ハードでどこまで備えるのか」に、答えが見出せません。

### ＜より良く復興する＞

“Build Back Better”に異議を唱える人はいないでしょう。しかし、誰にとって「より良い」なのかを考えると答えの出ない話になります。

岩手での業務は、住宅再建のための宅地を造成することでした。新しい町ができるわけで、「以前よりも良い町に」とか「賑わい」とかいう言葉が出てきて、「より良い町にするために、みんなでしっかり考えましょう」となります。考えるのは結構だが、事業が遅れなければいいなって思っていました。「より良い町」に異議ありませんが、被災者に夢を語ることを強要するようなテンションに違和感がありました。

震災後2年で建設された災害公営住宅に対し、「この町に4階建ての団地は似合わない」と憤っていた方がいらっしやいました。その方は「この町」の住民ではありません。美観の前で「早く仮設を出たい」って思いは、エゴなのでしょうか？

岩手での業務には、某鉄道の復旧要望を行う会議への出席というものもありました。彼らが沿線自治体に「復旧するなら利用者増進案を出してください」と求めました。震災以降、人口流出が加速する自治体に対して「利用者増進案」です。“Build Back Better”を赤字路線の切り捨てに使う、巨大民営企業のしたたかさを感じました。

カトマズ水道の被害状況について、「水道施設の30%以上がダメージを受けている。でも、それが震災によるものか

どうかはわからない」とう報を聞きました。正直な答えです。震災前から30%近いダメージは受けていたと思います。市民のインタビューで「水も電気も震災前から来ないよ」という言葉も聞きました。「より良く復興する」ため、やり過ぎなくらい水道施設が整備されることを願っています。そんなしたたかさをネパール水道に望みます。

思っていた以上に長々ととりとめのないぶつ切りの話になってしまいました。復興について、自分の考えをまとめようとしても散らかるばかりです。

東日本大震災から5年、ネパール地震から1年経ちました。でも、被災地には何も区切れるものは無いと思います。これからゆっくりと、でも着実に元の生活を取り戻していくのだと思います。

本稿を準備している間に熊本、大分が大きな被害を受けました。1週間ほど応急給水をお手伝いする中で、あらためて日常が一瞬で奪われることを思い知りました。

被災された方が一日も早く日常を取り戻されることを祈ります。



熊本 一回がひしゃげたマンション



熊本 応急給水

**ザイナブさんから日本語の報告**  
**神奈川県海外技術トレーニングプログラム**  
**について**

**Ms. Siti Zainab Lubis (メダン水道公社)**

Ms. Zainab については前号

(会報28号11P)で送別会の報告をしましたが、インドネシアに帰国後、約束通り、しかも日本語で研修の感想を送ってきました。一部山本が修正しましたが、6カ月の日本滞在で、日本語の文章を送ってくる意欲には驚ろかされました。今後日本とインドネシアを結ぶ仕事をしてくれるのではと期待が高まりました。  
 (事務局 山本)



Ms. Zainab

私はインドネシア人で、ルビス シティ ザイナブです。先月、日本からインドネシアに戻りました。日本では、七ヶ月間神奈川県の海外技術トレーニングプログラムを受けていました。中之蘭さんの紹介で WAQUAC-NET の会員になり、彼のすいせんでこのプログラムに参加することができました。このプログラムは九月一日から三月十二日まででした。一人で水道管理すべてについて学び、最初は難しいと思いました。

毎日七時に起きて、バスと電車にのり、研修センターへ行きました。私の研修センターは水道水質センタでした。まず水道水質センターで一ヶ月間水道の基本的な理論を学びました。それから企業庁と浄水場で水道管理について学びました。

浄水場は寒川と谷ヶ原浄水場でした。谷ヶ原浄水場では砂ろ過の異なるシステム(かんそくろ過)について教えてくれました。このシステムはとてもおもしろいと思いました。このシステムはインドネシアにはなかったです。それで、このシステムについて学ぶのは初めてでした。

寒川浄水場は原水として川の水を使っていますが、谷ヶ原浄水場は湖の水を使っています。ことなる水、異なる処理方法の事例です。しかし、両浄水場は同じ薬品を使用しています。硫酸アルミニウムと次亜塩素酸ナトリウムです。

インドネシアの北スマトラのろ過システムは砂と砂利だけを使っています。神奈川県の寒川浄水場と谷ヶ原浄水場は

砂利の下に有効ブロック形下部集水装置を使っています。そのため神奈川県の浄水場はインドネシアの北スマトラ浄水場よりろ過能力がよかったです。



有孔ブロック形下部集水システム

それから私と企業団の同僚たちは一緒に他の浄水場へ行きました。川崎市の長沢浄水場と横浜の有馬浄水場と河合浄水場も行きました。楽しいと思いました。今、北スマトラで私たちは同じ有孔ブロック形下部集水システムを使う計画を立てています。

水道水質センターで GLP を学びました。GLP は日本の Good Laboratory Practice です。このプロセスは ISO17025 よりもっと詳しいです。私たちの会社のラボラトリーは ISO 17025 の認証を受けています。そこでも私はまた、水の分析のために多くの分析機器を使用することを学びました。ICP-MS、HPLC、Solid Phase Micro Extractionなどを学びました。そして、微生物のテストも行いました。Heterotrophic Bacteria と Aerobic Spore Forming Bacteriaなどを学びました。大変でしたが楽しかったです。

それから、企業団の同僚たちと一緒にダム管理と水力発電所と太陽光発電所を視察しました。私たちが訪問した場所は津久井ダムと相模ダムと相川太陽光発電所と城山水力発電所でした。

また、私はさいたままで三日間、水道の国際会議に出席しました。すべての会議は日本語での発表で、大変でしたが、おもしろかったです。最終日に英語のプレゼンテーションがありました。このときは幸せでした。

私はまた、日本のせいかつを楽しむために私の友人といくつかの旅行をしました。横浜と東京と京都へ行きました。どこも

綺麗で、安全だと思いました。日本人はやさしくて、私の生活はとても楽しかったです。

WaQuAC-Net がこの機会のために私を推薦してくれてありがとうございます。私は私たちの会社で、日本で得た知識を共有し、適用したいと思います。

QQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQ

## JICA 派遣を振返って

中山武彦(横浜市水道局)

はじめまして。横浜市水道局の中山と申します。先日事務局より(独)国際協力機構(以下、JICA)に派遣されていた頃のエピソードを話して頂けないでしょうか？とのお話があり、今回 WaQuAC-Net に初投稿する運びとなりました。



中山武彦さん

横浜市から JICA への派遣は、私が3代目で、現在は4代目の敦賀さんが日々奮闘されています。通常の業務は、千代田区麹町の JICA 本部にある地球環境部の水資源グループに席を置きながら海外と行き来しており、主に有償資金協力業務を担当していました。この有償資金業務とは、取水から給水に至る水道施設全般の整備に要する事業費用を円建てのローンとして、整備資金を必要とする相手国に貸出すもので、技術、財政、運営管理等の様々な観点からその事業内容が妥当であるかを審査するものです。と、簡単に書いてしまいましたが、この内容全体像を何となく理解できるようになるまでは、1年近くはかかりました。というのも、協議やレポートは原則英文でのやり取りですし、円借款という馴染みのないものを扱うことなど、これまでの環境とは大きく異なっていたからです。私自身の英語能力はほぼ壊滅的といって等しく TOEIC については「穴があったら入りたい」レベルでした。また、業界用語も結構あり、例えば E/N、L/A※等単語の意味から勉強する有様でした。(前述の略語が理解できる方は、相当な国際人と思います。)そんなこんなで、その壁を乗り越えることが JICA の一員として働く第一歩であったような気がしますし、前任者の板谷さん、浅岡さんも同様のことを言っていました。すみません。そろそろ本題に入ります。

今回の頂いたお題は、「JICA の仕事で行った国の思い出」ということで、JICA 派遣の1年間で私が行った国は、全部で3か国になります。出張回数は、トータルで7回でした。チュニジア＝3回、ベトナム＝3回、インド＝1回という感じです。中でも、JICA での初仕事であった思い出深い場所としてチュニジアをご紹介させていただきます。チュニジアの初訪問は2014年4月下旬で、スファックスという人口50万人規模のチュニジア第2の都市における逆浸透(RO)膜による海水淡水化施設整備プロジェクトでの出張でした。横浜市での浄水処理といえば、川井浄水場でのセラミック膜による10万m3級の膜ろ過処理が始まったものの、急速濾過が主であることから、逆浸透膜とは何か？という所からのスタートでした。さらに、フランスの植民地であったことから協議はフランス語使用が前提となります。協議では通訳を付けて頂きましたが、フランス語、英語、アラビア語、日本語の4か国語が打合せ中に飛び交い、私は啞然として立ち尽くすだけでした。まさに国際協力の丁々発止の現場の一端を見た貴重な経験となりました。

スファックスに話は戻りますが、首都チュニスから250km程度離れており、東京～名古屋間の距離に相当します。



スファックス位置図

チュニジアでの上水道供給は、SONEDE(Société Nationale d'Exploitation et de Distribution des Eaux)という水資源開発公社のような組織が運営を行っているのですが、彼らはこのチュニスからスファックスまでの長い距離に及ぶ上水道供給を24時間連続で行っています。

スファックスは、南部に位置し乾燥した砂漠気候に近い地域のため、年間降水量が200mm(東京は1800mm)と非常に少なく、近隣の地下水源も塩分濃度が高く飲料水に適していません。そのため、スファックスの水源は首都チュニス方面からと中西部のスベイトラ方面からの送水に殆どを頼っています。さらに、近年は国全体で水需要が増加しており、2012年の夏は水不足となり社会的に問題になったようです。つまり、現在の水供給体制では、新たな水源を確保しない限りは、将来的に安定した水供給を行うことは難しく、ひとたび水不足が起これば、市民の不満が高まり、社会的な混乱が起きかねないという綱渡りの状態にあるということになります。そこで新たな水源として逆浸透(RO)膜による海水淡水化施設が必要になったということだったのです。それにしても、私にとっては250kmも離れた場所で水を作り、24時間停止することなく、水を供給すること自体が驚きであり、彼らの運営能力の高さに深く感動した次第でした。(この様な広大な範囲を管理する水道事業体が日本にあるのでしょうか?)それが自分にとっては非常に大きな発見であり、その高い技術力と喫緊の差し迫った課題があるからこそ、彼らが交渉において厳しい要求を次々とするのだと納得することが出来ました。

そこからは、言葉は通じなくとも、同じ水道マンとして何か一つやってみようと思えるようになり、仕事が面白くなって来た感じがしました。特に3回目の出張時になると、アウェー感がなくなり、ホームに帰ってきたという位の感じになっていました。当然なのですが、何事も理解を深めるには、現場に行くことが改めて重要だと感じました。その土地へ行き、その町、人の動き、車の流れをつぶさに見て、日常の中へ僅かの期間でも居ることで、報告書や話し合いでは掴めない何かを得ることが出来ると思うからです。円借款の審査においても、そこが重要な鍵になるのではないかと思います。

少し仕事以外の話もしたいと思います。平日は、基本的にチュニス市内のモンフルリの丘の上にある SONED 事務所で打合せをしていました。その時の写真がこちらです。



見えにくいかもしれませんが、澄んだ青色の空が美しく、ここからチュニス湖も望むことが出来るため、難しい協議の合間にこの景色を見ることで少し心が和んだことを思い出します。また、ランチには、ホテル近くのレストランでスパゲティのテイクアウトを焼きたてのパンとセットで食べることも楽しみの一つでした。お値段は何と5.5ディナール(約300円!)で、美味しかったことは言うまでもありません。

今回の執筆にあたり振り返ってみると、改めて色々なことを経験することが出来たのだと感じました。そして、同時に自分の知らない世界が多くあり、まだまだ勉強を続けていくことが大切なのだとすることを強く感じた次第です。最後になりますが、JICA 関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。至らぬ点が多々ありましたが、皆さまのサポートのお陰で何とか乗り切ることが出来ました。この場をお借りして感謝申し上げます。本当に有難うございました。本当はベトナムやインドのこと、その諸々書きたいことは多々ありましたが、紙面の都合上、ここまでとさせていただきます。長々文面お付き合い頂き有難うございました。

※L/A: Loan Agreement (借款契約)

E/N: Exchange of Note (交換公文)



#### お知らせ

#### 第9回ミニツド「アフリカの水」勉強会

日時: 2016年6月24日 18時30分～21時

場所: 新宿区新宿 1-23-1 新宿マルネビル 2階 地球システム科学(株)本社 2F 会議室

[http://www.ess-jpn.co.jp/?page\\_id=22](http://www.ess-jpn.co.jp/?page_id=22)

参加希望の方は事務局まで連絡ください [waquac\\_net@yahoo.co.jp](mailto:waquac_net@yahoo.co.jp)

## シンポジウム 「アジアにおける都市の水管理」 報告

2016年4月15日@東京大学

標記のシンポジウムに出席し、大変示唆に富んだ内容でしたので、概要をご報告します。(実施詳細は主催者 HP をご参照ください。)



[http://www.jica.go.jp/topics/2016/20160415\\_02.html](http://www.jica.go.jp/topics/2016/20160415_02.html)

### I. シンガポール国立大学 リークアンユー公共政策大学院 アシット・K・ビスワス名誉客員教授「プノンペン市における都市の水管理：目覚ましい改革の軌跡」

カンボジア・プノンペン水道公社の目覚ましい改革と成功は広く知られているが、そこにいたる日本の貢献は知られていない。各国での支援の成功事例を整理し、日本の貢献を海外に向けてアピールしていくとよいと考える。同様に、東京を始め日本の水道事業体のパフォーマンスは素晴らしいと聞いているが、国外からの情報アクセスが困難であるため、英語でアピールする「The Tokyo Water Story」のような書籍にまとめるのはどうか(注1)。

水分野で日本の民間企業が海外進出するにあたっては、より現地人材を活用し、日本の技術だけにこだわらず、現地で、特に途上国で適用可能な技術を採用するようなビジネスモデルの転換が必要と考える。

### II. 同大学院 セシリア・トルタハーダ上席研究員「シンガポールの水物語」

広く知られるように、シンガポールはマレーシアからの水の輸入に依存していた状態から、国家の持続的な発展のために、政策として水資源の独立性を確保する方針とした。水資源の多様化のため、1) 集水域の拡大・保全、2) 輸入水量の低減、3) 再生水(NEWater)の活用、4) 海水淡水化の導入を計画的に進めてきている。また、需要量のコントロールのために、1) 料金設定、2) インセンティブ、3) 市民への啓発を並行して進めてきている。

### III. 東京大学生産技術研究所 沖大幹教授「日本における都市の水管理と将来展望」

東京も40年ほど前までは需要量が供給量を上回っており、水源の汚染や地盤沈下の諸々の課題に対応してきた。今後は人口減少による施設の維持管理の比重増、気候変動による短時間の集中豪雨の増加など環境が変わっていく。

2015年に国連総会で策定された SDG(持続可能な開発目標)は、MDG(ミレニアム開発目標)に比べて理想的な状態を目指していると捉えており、「どのような状態を目指すのか」を念頭に具体的な指標設定をしていくことが重要であろうと考える。

### IV. パネルディスカッション

最後にフロアからの質問も交えてパネルディスカッションが持たれました。

注1:ピソワス教授は、トルタハーダ教授らと共著で、シンガポールの持続的な発展のために進められてきた水資源の改革について「The Singapore Water Story」として出版している。(文責:事務局 鎗内 美奈)



WaQuAC-Net 専門家派遣

### 藻類調査 PPWSA & MWA

5月17日から31日まで、佐々木眞一さんがカンボジア、プノンペン市水道公社(PPWSA)、タイ、首都圏水道公社(MWA)で藻類調査に協力しました。両公社とも、かつて、佐々木さんが JICA 専門家として水道生物について技術指導をしたところで、PPWSA では、カウンターパートの皆さんと久しぶりの再会となりました。

PPWSA は昨年11月に副総裁 Mr. Long Naro が来日した際に、藻類が発生しているので協力してほしいと依頼されたことがきっかけで派遣が決まりました。

MWA は2012年に WaQuAC-NET と技術協力 MOU を結んでから毎年藻類対策、特に水源の藻類の動向調査に協力してきましたが、今年は浄水場の藻類対策についての協力と11月の日水協の水道研究発表会のための論文作成協力の派遣でした。成果は次号に載せる予定ですが、PPWSA へは今後の課題として、藻類のモニタリングとその体制の構築を提案、MWA は藻類 Aulacoseira の大繁殖に対する浄水処理、特に薬品注入の最適性に関する試験結果とその考察を論文にすることです。最終日にセミナーが開かれ MWA 総裁が参加しましたが、試験の成果を高く評価されたそうです。(文責:事務局 山本)

今回の調査日程(その1、カンボジア、プノンペン)

5月17日 羽田発—バンコク経由—プノンペン

5月18日 PPWSA 総裁表敬・打ち合わせ  
ニロート新浄水場視察・採水

5月19日 チュルイチャンワー浄水場 採水  
水道生物の基礎 講義(水質7名)

5月20日 ケップ湾・カンポット貯水池水質調査  
採水・聞き取り

5月21日 プンブレック浄水場採水・水質職員に顕  
微場試験のOJT、今後の調査課題打合

5月22日 中央ラボで顕微鏡試験のOJT

5月23日 プノンペン発—バンコクへ

調査日程 (その2、バンコク MWA)

5月24日 副総裁表敬、調査打ち合せ、バンケン浄  
水場でろ過閉塞問題を調査、採水

5月25日 ジャーテストのOJT

5月26日 同上、顕微鏡試験

5月27日 チャオプラヤ川上流、アユタヤで採水

5月28日 サンプル水の前処理等

5月29日 試験のまとめと、発表資料作成

5月30日 セミナーでジャーテストの試験結果の発表、  
総裁、元副総裁と50名の水質職員参加

5月31日 バンコク発—羽田へ



PPWSAの水質職員に水道生物の講義



MWA 総裁・セミナー参加者と記念撮影

♪♪♪♪ 飲・ベ・ン・ト ♪♪♪♪

2016.3~2016.5

\*\*\*\*\*

— 鎗内さんの壮行会 —

やっと・ミャンマーへ長期赴任！

\*\*\*\*\*

4月28日、東京駅にて鎗内さんの壮行会を行いました。かなりお忙しい中、ご参加頂きました。参加者は有村さん、中山さん、森田さん、佐々木さん、山本さん、堀江の7名でした。鎗内さんは、5月10日にヤンゴンに向けて出発され、2年間は現地でヤンゴン市水道事業運営改善に従事します。ヤンゴンは、施設整備のハード面と技プロによるソフト面の支援が一斉に進んでおり、今後数年間で大きくサービスが改善されることが期待されます。

ヤンゴン市は今後急速な経済発展が見込まれ2040年には現在の人口の2倍に増加すると推定される他、産業や商業の活性化が期待されています。他方、現在の給水率は約37%に留まっており、水質や無収水等を改善しながら計画的な上水道整備を行うことが必要です。

今後も現地での益々のご活躍をお祈り申し上げます。  
また WaQuAC-NET への投稿も宜しくお願いします。

佐々木さんが酔っぱらった勢いでお別れのハグをしようとした  
ましたが、鎗内さんに本気で嫌がられていました。

(文責:堀江)



## 第6回 SDDC+花見

4月1日～9日までカンボジア・工業手工芸省(MIH)長官 エクソンチャン氏がプロジェクトの契約で、3名の MIH 高官と来日しました。まさに桜が満開の時期で、何度も来日しているエクソンチャン長官ですが、今回初めて満開の桜見を堪能しました。4月2日はちょうど日曜日で、仕事の打ち合わせも午前中に終わり、午後からは市ヶ谷の土手→靖国神社→北の丸公園→千鳥ヶ淵を人ごみの中約2時間近く花見散策をしました。

第6回 SDDC は4月7日、恒例の新宿西口思い出横丁で開催しました。カンボジア側はエクソンチャン長官にタンソビディア水道部長、ソンクンティア・プロジェクト主任、ブンチャンコン・カンポット水道局長が加わり、WaQuAC-NET 側は中之蘆さん、笹山さん、佐々木さん、鎗内さん、山本が参加しました。SDDC は小さい、暗い、汚い、安い店で、無礼講で酒を飲む会で、いつもながらのばか騒ぎをしましたが、昨今新宿西口線路わきといえども安いとはえず、小ざれいで、観光客がたくさん来ていました。店を出てからは、歌舞伎町入口を見学、ビルの上のゴジラに挨拶をして、カンボジアの皆さんはホテルに戻りました。



桜満開の靖国神社の前で



新宿西口思い出横丁 SDDC も6回目

### 新規メンバー紹介 (申し込み順・敬称略)

- 坂本明子 (日本)
- 西尾弘伸 (日本)
- 瀬川進太 (日本)
- 大嶋雄生 (日本)
- Ms. Nguyen Thi Thu Trang (ベトナム)
- Ms. Vong Amra (カンボジア)
- Ms. Nov Nimol ( " )
- Ms. Kong Sopheak ( " )
- Ms. Jantima Lerkwisa ( タイ )
- Ms. Chaweepan Suangkiattikun ( " )
- Ms. Charida Techarukpong ( " )
- Ms. Mint Norna ( " )
- Ms. Sutivit Watcharabusaracum ( " )
- Ms. Achara Sangkato ( " )

趣旨に同意いただける方を募っております。  
入会は事務局まで。

### WaQuAC-NET 会報 第29号

発行: 2016年6月10日

WaQuAC-NET 事務局

連絡先: waquac\_net@yahoo.co.jp (鎗内)

URL: <http://www.waquac.net>

### 今後の活動予定

6月24日: 第9回ミニツド「アフリカの水」勉強会

7月10日: Newsletter Vol.29 発行

24日: 九州支部総会

9月10日: 会報30号発行

16日: 第3回大阪集会

10月10日: Newsletter vol.30 発行